

## ジャパンサーチワーキンググループ（第3回）

日時：令和3年6月3日（木） 16：00～17：55

場所：オンライン及び国立情報学研究所12階1208講義室

- 議事：（1）ジャパンサーチの戦略方針について  
（2）広報の強化について（コミュニティの育成）  
（3）利活用の促進について（利活用事例の創出と情報共有）  
（4）その他

### 一、開会

○事務局 皆様、おそろいになっているかと思しますので、ただいまからジャパンサーチワーキンググループ第3回会合を、始めさせていただきます。本日は、御多用のところ御参加をいただきまして、ありがとうございます。今回もコロナ対策ということで、基本はオンラインとしながら、フィジカルを併用しての開催とさせていただきました。

オンラインでの御参加の皆さんにおかれましては、慣れているかと思しますが、会議中、発言時以外はマイクをミュートをお願いいたします。こちらで操作をさせていただく場合もありますので、御了承いただければと思います。

また、御発言を希望の場合には、画面で手を振っていただくか、チャット等のお知らせいただくか、お願いできればと思います。

また、フィジカルの方におかれましては、発言の際にはお名前を名乗っていただきますと、オンラインの方にお分かりになりますので、御協力をよろしくをお願いいたします。

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料1として「ジャパンサーチの戦略方針（2021-2025）について」。

資料2として「ジャパンサーチWG（第3回）論点メモ」。

参考資料1として「ジャパンサーチワーキンググループ（第2回）の意見概要（論点整理）」。

この場限りということで、別添でジャパンサーチ連携候補一覧。

以上、4点を配付しております。

事前にメールでお送りしておりますが、過不足がございましたら、事務局に御連絡をいただければと思います。

本日の出欠状況ではございますが、お昼過ぎにお送りさせていただいたとおりでございます。フィジカルの方には、お手元に配付をしてございます。

それでは、ここから先の進行を高野座長にお願いしたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

### 一、議事

## (1) ジャパンサーチの戦略方針について

○高野座長 それでは、議事に移らせていただきます。

今日は四つあるわけですが「(1) ジャパンサーチの戦略方針について」というところで、前半1時間ぐらいを充てようかと思っています。あとは残りの時間ということで考えております。

それでは「(1) ジャパンサーチの戦略方針について」ということで、国立国会図書館から説明をいただきます。

中に論点が三つありまして、ミッションについて、活動ポリシーについて、コレクションポリシーについてということで、議論は分けて順番にやっていきたいと思いますが、説明は一括してお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

○徳原室長 国立国会図書館の徳原でございます。本日はよろしくお願いいたします。

資料1になります。

ジャパンサーチの戦略方針の5年分、2021年から2025年までのものをつくりたいと考えております。

盛り込むべきことといたしましては、そもそもジャパンサーチにはまだ「ミッション」がないということもございますので、ジャパンサーチは、いわゆるデジタルアーカイブ社会において、どういった役割を果たしていくのか、単なるポータルサービスではなく、様々なデジタルトランスフォーメーションの基盤となるようなもの、プラットフォームとしての活動の方向性を盛り込めないかと事務局としては考えております。

「活動ポリシー」ですが、場合によっては活動目標なのかもしれません。前回までの御議論のところで、それぞれの分野において教育、学術・研究、観光など、何ができるのかが明確ではない、それぞれのセグメントでより細分化した詳細な方向性を示せたほうがいいのか、利活用者層ごとの活用シナリオが必要ではないか、といった御意見をいただいておりますので、そういったサービス内容を明示できる、何かしら明確化できるようなものが必要ではないかと考えております。

もう一点、「コレクションポリシー」です。ジャパンサーチは何と連携していくのか、どういう優先順位で連携していくのかは、対象の明確化が必要と考えております。

最後にオレンジ色で追加しておりますが、デジタルアーカイブ社会を推進していくためには、二次利用条件の整備、どういった条件で使えるのか、また、自由に使えるというオープン化の推進が必要ですし、さらに言うと、長期保存といった観点も抜けていることが多いので、デジタルアーカイブは長期にアクセス保証していく必要があることも戦略方針の中に示せたらいいと考えております。

先ず、「ミッション」を考えるに当たっては、何らかのキャッチフレーズが必要ではな

いかと思っております。この後、参考資料でEuropeana等の例も示しておりますけれども、その中からいわゆるキャッチフレーズになるようなものを例としてここには挙げておりません。

例えば、Europeanaの場合、「Empowering digital change」とか、これは最近のものなのですけれども、5年前のものですと、「We transform the world with culture」といったことなどが書かれています。

アメリカのDPLAの場合は、全ての人が知へのアクセス保証を、といったものです。

ニュージーランド国立図書館がDigital NZというものをやっているのですけれども、ここでも、「知識を価値に変える」といったことを掲げていたりします。

今後5年間を意識して、皆様にはこんなキャッチフレーズがいいのではないかと思います。ことを考えていただければと思っております。

あくまでたたき台として、事務局で用意したのは、日本の文化的デジタル資源を生活の一部にするとか、デジタル変革は文化を豊かにするなど、「真理はわれらを自由にする」ではないのですけれども、そういったキャッチフレーズがあると、ジャパンサーチを一言で表現できるようなものになるのではないかとと思っております。

実際のミッションステートメントについてです。具体的なミッションの中身について、事務局のイメージ例を1から3まで挙げているのですけれども、日本に関係する文化的・学術的・社会的コンテンツの発見可能性を高めて、より活用しやすくする。教育、学術・研究、観光、地域活性化、防災、ビジネスなどにおける課題を解決する。これは今までも掲げられてきているところではあるのですけれども、しっかりとジャパンサーチの戦略方針として、何かしらのミッションステートメントが欲しいということで、事務局としてのイメージを挙げております。これにとらわれず、御意見をいただければと思っております。

これまでSlackを立ち上げて、Slackで御議論をとということで、前回の1月以降、Slackも用意していたのですけれども、一部の先生方には御意見等をいただけているところ、思ったほど活発ではなくて、この後も御議論を活発にいただければと思っておりますので、まだSlackなどに参加できていない方もいらっしゃいますし、どんな議論があったのかということで、簡単にこちらのスライドで紹介させていただいております。

例えば、画像検索をもっと売りにしてもいいのではないかとか、子供たちに安心・安全な学習サイトとしても使えるとか、そもそもプラットフォームということであれば、機械がどう使えるかといったところを意識して、デジタルアーカイブのデータ駆動型活用モデルみたいなことを考えていくべきだみたいな、そういったコメントも書き込んでいただいております。こういったSlackでの議論を紹介させていただいて、御議論いただければと思います。

最後の利用者ニーズのところは、提供側の要望が多いところ、最終的には利用者ニーズを出していければ、結局は提供側がどういう要件で出していくかも決まってくることもあるのではないかと、利用者側からの視点で書くことも考えられるだろう、といった御意見も

いただいております。

次に、「活動ポリシーについて」です。こちらはそれぞれ利用者層ごとの活用シナリオみたいなものを書いてはどうだろうと考えております。あくまでこれも事務局イメージ例ですので、それぞれの教育、学術・研究、観光、地域活性化等のところでどういうことができるかみたいなことを書けるといいのではないかと。ここではさらっと1行で書いているのですけれども、もうちょっときちっと書き込んでいけたらいいと思っています。

ただ、こういう方向でつくる前に、皆様におかれましては、もっとこういう活動の内容を書くべきだとか、目標と掲げるのであれば、もっと違う書き方がいいのではないかと。いったところも御議論をお願いできればと思っています。

こちらでもSlack等で出ている御意見を御紹介しております。7ページ目になります。

Europeanaというのは、コミュニティをいろいろつくってきているところがあるので、それを参考にしてどういうふうにつくっていけばいいのかを考えていけるとよいという御意見があります。

小学校の授業で使ってもらうことが重要だという御意見のほか、大学生に使ってもらうというのは、論文作成のときに使うのはCiNiiなどが多いので、ジャパンサーチを使うということになると、もうちょっとアピールが必要ではないかとか、面白いコンテンツをつくって、ファシリテートできる人材の育成の場が必要ではないか、ジャパンサーチの場だけではなく、外のところでいろいろできる場を用意してもいいのではないかと、大学研究者など、学術・研究だけではなくて、最後、観光分野で考えていったほうがインパクトは大きいのではないかと。といったような御意見をいただいております。

「KPI」についてです。Europeanaでもよく掲げられているのですけれども、5年後の2025年、目指す姿がどういうものであるべきかということの数値で示すものが必要です。例えば事務局イメージ案としては、47都道府県にあるアーカイブ機関の一つ以上とは連携しているとか、どういう形でもいいから連携している、これが割と目標的にもいけるといいと思っています。

あとは、連携コンテンツで権利区分が設定されていないものも多くあるので、全ての連携コンテンツに設定されること、なども考えられると思っています。

また、オープン化の推進のためには、何割以上のコンテンツがオープンデータになっているとか、最後のところは活用コミュニティについて、ジャパンサーチのためにいろいろ活動してくれるコミュニティがこれだけ育ってきた、みたいなことが考えられるか、ということをおくまで案として御提示しております。

以下、参考資料です。

これはEuropeanaに対して新しいところだけではなくて、10年前の中身のほうが参考になることもあるかもしれないという御意見をいただきましたので、このような形で紹介させていただきます。

参考1のところは、Europeanaの2011年のときの戦略目標になっています。このときは集約する、支援する、普及させる、巻き込むといった形で掲げられています。

あとは、2015年から2020年です。そのときのキーワードが「文化で世界の変革を」といったことが示されていて、データの品質を向上させましょう、データをオープン化させましょう、パートナーの利益をもっとつくっていきましょうといったことが書かれています。ジャパンサーチは、もしかしたら、この段階に近いのかもしれないと思っております。

もう一つのスライドで、2020年から2025年までについてのところです。これは前回も紹介したので省略しますが、インフラとデータ品質と各アーカイブ機関のデジタル改革の支援といったことが掲げられています。

Europeanaに関しての資料としては、Europeanaそのものだけではなくて、EUの政策に関係するところもちゃんと見るべきだといった御指摘もいただきましたので、それに関する資料も参考2としてつけております。2010年のEUROPE 2020、2015年の欧州デジタル単一市場、2020年のデジタル戦略、デジタル・コンパス2030は今年に公開されているものですが、このような内容になっております。

参考3については、アメリカのDPLAとニュージーランドのそれぞれどんなものが掲げられているかを参考に紹介しております。

DPLAでは、積極的協働とか、平等と包摂、テクノロジーの持つ可能性への期待が掲げられています。

参考4と参考5は、前回の資料の再掲になります。もしかしたら、議論のときに必要かもしれないと思っつけているものになりますので、説明は割愛させていただきます。

「コレクションポリシー」についてです。こちらもこれまで御議論をいただいていたところ、こういうものを明確にする必要があるのではないかとといった指摘をいただきまして、今回、策定したいということで、内容の方向性について御議論いただければと思っております。

生貝先生からSlackで既に具体的なアイデアをいただいているので、ここにコピペをさせていただきます。そもそも連携機関の範囲を示すという方法もありますし、あとは連携コンテンツの範囲を示すという方法、そうではなくて、現状、こういう手続でつなぎ役を優先してやっていて、直接連携はこういう範囲でやっていますといった連携手続を示していくことで、全体のイメージをつかめるようにするといった方法もあるのではないかと、三つのイメージを仮にお示ししております。

こちらSlackのところで、特に今回、コレクションポリシーを考えるに当たって御議論いただきたいのですが、営利・非営利をどう考えるかといったことがございます。組織は営利であったとしても、直接的な営利を目的としなければ、リンクしてもいいのではないかと、例えばサムネイルは自由に利用できる新聞社の写真データベースは見栄えもある、といった御意見もいただいております。

また、営利・非営利というところでは、例えばコンテンツがオープンな利用が可能な場

合であっても、コンテンツを集約するサイトの運営者が掲載時に費用を取っている場合などがあるが、それを営利とするのか、どう考えるのかといったことがあります。

地域の小さなデジタルアーカイブとはどう連携していくのか。直接連携を個別にやっていくのは、マンパワーも限られていて難しい中、そうとはいえ、地域の貴重なデジタルアーカイブとの連携は大変重要ですので、例えば災害とか、震災などのテーマを掲げて、そのテーマに沿ったものだと、優先して小さいところでも直接連携していくとか、何かしら考えたほうがいいのかといった御意見もいただいております。

参考6としては、Europeanaのコレクションポリシーに近いようなことが書かれているものを抽出してみました。

実際、Europeanaのホームページ自体には、具体的にこういうところと連携しますといった連携範囲は書かれていなくて、ただ、この資料では、これも生貝先生にSlackで御紹介いただいたものなのですけれども、こういった形でコンテンツの種類とか、地理的な範囲とかが書かれているところになりますので、これも参考になると思って、資料につけさせていただきました。

参考7は、ジャパンサーチの今の連携状況です。いわゆるつなぎ役といってもいいところと直接連携をしているところと整理してみました。

つなぎ役の①②③④は、後ろに出てくる区分けになるのですけれども、類型のところ但凡例を書いておきますとおり、複数のアーカイブ機関のデータベースをまとめているポータルが①です。②は、同じ組織内の複数機関のデータを集約しているところです。③は、同じ分野のテーマの資料について、団体、個人等からいろいろ集約している一つのデータベースです。④は、データベースは構築していないのだけれども、つなぎ役としてアーカイブを支援しているといったところです。

こう見ても、国の機関も多いということと、地方を増やしていく必要があるだろうといったことは見えてくるような気がします。

参考7の続きは、それぞれ分野ごとにどういったものが入っていて、量的にどうなっているかといったものを示したのがスライド21ページです。

参考8ですが、これも前回第2回の際に掲げている資料と同じになっておりますが、ざっと見て右から公立・公共、私立・民間と、これはまだまだこれからということで、青が多くなっているものになっておりますので、これらとどう連携していくか、コレクションポリシーをどういうふうに掲げて、どういうものを見つけていくかといったことも盛り込めたらありがたいと思っております。

参考9は、先ほど申し上げたつなぎ役の事例のパターンの図表になりまして、これも前回おつけしている資料と同じです。

参考10につきましても、前回の全体戦略ワーキンググループでつけているものになりますけれども、ア、イ、ウに関しては、つなぎ役の役割で、ただ、エから下に関しては、つなぎ役という名前ではなくて、利活用する人たちにどう広げていくかという拡げ役みたいなものではないかみたいな御意見もあったと思います。

全体を振り返って、ジャパンサーチの戦略方針については、こういった内容を盛り込んでいくべきかといったことについて、御議論をお願いできればと思います。

説明は以上になります。

### 【ミッションについて】

○高野座長 どうもありがとうございました。

それでは、三つに分けてこの後を進めていきます。まずはミッションに関する議論、次は活動ポリシー、最後にコレクションポリシーということで、最大15分ぐらいの時間で御議論いただければと思います。

いかがでしょうか。山崎さん、お願いします。

○山崎構成員 二つあるのですけれども、一つは、ミッションのところのキャッチフレーズみたいなところですか。イメージ的には大体合っていると思うのですけれども、一つ気になったのは、文化という言葉が全部に入っているのですけれども、入れ方を少し考えたほうが良いということです。文化があるのは当然なのです。文化が趣旨になることは間違いないのですけれども、入れるとしたら、それが全てと思われなような、勘違いされないような使い方です。あまり長くしないほうが良いと思ったのですけれども、少し時間をかけても、そこはいろんな方の御意見をいただいたほうが良いと思います。キャッチフレーズは簡単に変えられなくなるので、一度決めたらそれを貫いていかなければいけないということがあるのか。それが一つです。

拡げ役という言葉がいかどうかは分かりませんが、役割については絶対に必要だと思います。特に地方の機関の連携数が少ないのですが、具体的に様々な方はいるので、そういう方々をお願いして、地方の方々と直接会う、お話しできるような人をお願いして、いろいろな形で支援していただければ良いと思います。

デジタルアーカイブについては、私自身も2～3件抱えているのですけれども、同じようなことをやっています。技術的なことが全く分からないし、ジャパンサーチという名前は聞いたことあるのだけれども、具体的に連携するためにはどんな準備が必要なのか、どんな条件があるのかとなると、分からないというところです。

今のジャパンサーチは、システムとしては相当よくできているので、つなぐことができれば、相当なメリットがあるのかと思って、いつもそう話しているのですけれども、一歩踏み出すための後押し役が必要だと思います。

○高野座長 室屋さん、どうぞ。

○室屋構成員 キャッチフレーズというか、ミッションを考えるときに、基本的なところで事務局の方に質問なのですけれども、中期的ミッションとか、中長期的ミッションとか、長期的ミッションなど、いろんなレベルがあって、2025年ということなので、中短期的なのかと思うのですけれども、2025年は例えば万博があったり、そういった年なのですけれども、そういうところへの意識は何か置かれていますでしょうかということをお伺いしたいのです。

○徳原室長 御質問ありがとうございます。

期間としては、2021年から2025年までをターゲットにして、その5年間でジャパンサーチは何に取り組むのだということが分かるようなキャッチフレーズがいいと思っております。事務局案では、万博等は特に意識していません。

○室屋構成員 ありがとうございます。

個人的な感想だと、文化的デジタル資源という言葉があまりにもあれかと思っ、もうちょっと平たい言い方があると、キャッチフレーズとしては通じやすいというのが第一印象です。デジタルとか、先ほど山崎先生もおっしゃったみたいに、文化を連発するのもどうかと思いますので、もうちょっと平たい平易な言葉で短く言えるといいと思っ、私もお話ししながら考えていたのですが、具体的なものはございません。ありがとうございます。

○高野座長 オープンガバメントとか、デジタル庁とか、そういうデジタルを巡る国の中のいろいろな動きもあって、そういうものにあまり巻き込まれたくないということで、文化と言いたくなるのかもしれませんが。その辺は、おっしゃるように検討の余地がありますね。

後藤さん、どうでしょうか。

○後藤構成員 キャッチフレーズのところでいうと、アーカイブという言葉がこの後に使い続けるかどうかというのが一つのポイントになると思います。ここまでつくってくるまでのところでは、結構重要なキーワードとしてデジタルアーカイブという言葉を使ってきたので、今回の事務局のたたき台の段階では、あえてなのか、結果的なのか分からないのですけれども、そこを外しているわけで、そこを維持するかどうかというのは、一つの論点というか、まずこれが一つの分かれ目になると思います。アーカイブという言葉を使うということになれば、例えばデジタルアーカイブ社会であるとか、そういう言い方がかなりできてくるので、話が変わるということが一つです。

あとは、この後のSlackの中で、機械側がどう使いよいかという話のところを書いたのは私なのですが、デジタルアーカイブが循環していくというイメージが結構大事なのではないかと私は思っ、各地のアーカイブがジャパンサーチを中心にして、ある意味で集まってきているわけで、ただ、集まってきているだけではなくて、それを使って、使われたものがもう一度人間の文化活動としてアーカイブされていくところまで流れていかないといけないと思っのです。

今、我々がデジタルアーカイブを使った結果も文化活動なので、そういうものも含めて、それがもう一度アーカイブされてい、それが再度活用されるという循環プロセスの中に入っていくことが大事だと思っています。

その点では、つくり手と使い手という概念自体は、そろそろ考え直したほうがいいのではないかというか、使う人も結果的にはSNSなどでどんどん出していくわけなので、実は彼らもつくり手だという発想をする必要があるのではないかと思っしていますし、あとは情報屋さんなどは、当然これを使って新たなキュレーションのサービスで、ああいうような形



のサービスをつくっていきます。

その意味では、ここでも書いたのですが、ジャパンサーチはデータ供給源なのです。だから、そこからさらに新しいものが生まれて、それが使い手でもあり、さらにそこは作り手でもあるという形でどんどん回っていくような、その推進の根拠として、推進の回していく水車の軸みたいところにジャパンサーチがあるという位置づけになることがいいのかということ、ミッションのところの議論では考えました。

長くなりました。以上です。

○高野座長 確かに集めるところを中心にこれまでは活動を定義したし、ドライブしてきたわけですが、集めることと使うことが対称形といいますか、どちらも同等な価値を持つということになると思うので、それを含めたミッションとか、それを包括するような表現になるといい。その過程でデジタルアーカイブという言葉を使わなくても済むようになれば一番いいですけれども、この委員会の名前がデジタルアーカイブジャパン推進委員会ですので、前提条件としては入っていると思います。デジタルアーカイブ社会の実現のための云々とか、そんな環境の話として触れればよいのかもしれない。

ほかにはいかがでしょうか。杉本先生、どうぞ。

○杉本構成員 2点ありまして、一つは、スライドの3ページの「「ミッション」を考える」のところにあるのは、デジタル化が主という感じがするのです。それをやめてしまったらどうかと思って、デジタルは普通なのだということから、デジタルから見て、フィジカルまでつないでしまうというような感じの見方に転換できないかということが一つです。どういうフレーズかと言われると困るのですけれども、それが1点です。

もう一つは、大分前なのですが、デジタルアーカイブに関する講演を頼まれた際に、デジタルアーカイブの役割は、使って、つくって、つながっていく中で、頭文字は全部「つ」で、三つか、四つを並べたことがあるのです。それが今の後藤さんの話と同じだろうと思うのです。ですから、そこに何かのつながるサイクルをつくっていく、あるいはネットワークをつくっていくということがミッションとできないか。アーカイブという語からはためるところという理解になるかもしれないが、つながる場をつくるみたいなことがミッションとして出てくると、よりよいと思うのです。

以上です。

○高野座長 どうもありがとうございました。

プラットフォームというところで、その辺を志し高く語っていくのがよいかもしれません。

#### 【活動ポリシーについて】

○高野座長 またここに戻って議論することもあると思いますが、次に行きます。

次は、活動ポリシーです。目標を掲げようというところで、先ほどの御説明の資料だと6ページ以降のところ。御意見がある方はどうぞ。山崎さん、いかがでしょうか。

○山崎構成員 ここの利活用のところは、後段のところと関わってくるのか、一体と思っ

ているのですけれども、今のジャパンサーチは、手前みそだけれども、システムとして結構よくできています。ただ、機能が逆にあり過ぎてしまうので、相当うまく活用を促進していかないと難しいという印象です。

例えば言えば、高機能なので、ボタンがいっぱいついた車に乗っているような感じですか。シンプルな機能があるといいながらも、シンプルでは設計していないということで、私が現場に行ってお話するときも難しいのです。ジャパンサーチだけをしゃべれば、何時間も必要だというところがあるので、簡単に利用できるようなイメージがどこかにあって、検索する側は、どんなに難しくないような気がするのです。それをちゃんと活用する、集約するとなれば、途端に敷居が高くなるので、そこはどうかという感じです。拡張役ということを先ほどお話ししたのは、そういうものを含めてということなのです。

ちょっと戻ってしまいますけれども、情報の円環の話が出てきて、もっともな御意見で、もともと図書館の世界だと、円環という話をよくするのです。通過点です。集約してそれを一般住民に提供することによって、また新たな整理された知識とか、知恵が紙となって戻ってくる。このジャパンサーチも結局同じなわけです。

それは当たり前といえば当たり前なのですけれども、勘違いされるかもしれませんが、ここが全部の集約地点みたいなことで、必ずしもそこで止まってしまいうわけではなく、そこから新しいものが別につくられて、逆にまた戻ってくるというイメージは、どこかで出してあげればいいのです。先ほどの後藤さんの話とか、杉本先生のお話を聞いても思いました。

○高野座長 どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。杉本さん、どうぞ。

○杉本構成員 今までとにかくジャパンサーチはコンテンツを増やそう、いっぱい探せるようにしよう、見られるようにしようとしていて、大きいお店を一つの入り口で使えるようにという作り方をしてきたと思うのです。例えば非常にシンプルなインターフェースを持って、いろんなものが探せて、いろんなものが見られてというのは、それはそれでいいと思うのです。

その一方で、ここでの議論でもありますように、どういうお客さんに向けてサービスをしていくのかということが求められてくるとすれば、そうすると、今まで大きいものをつくってきました。それより専門店化していくということも考えておく必要があるのではないかな。それをどういうふうにするか。専門店化というのは、要は教育利用とか、地域に特化して何か、あるいは重要文化財に特化してやるのですというような、そういう意味ではいろいろあるわけです。Europeana風にくと、どちらかという、重要文化財的なわけです。でも、それとは違う専門店化の仕方を考えていきたいと思います。一つのやらねばならぬことだと思います。

以上です。

○高野座長 どうもありがとうございました。

デパート的な意味ではオープンしたけれども、実際にお客さんとして満足して帰ってもらうためには、外商窓口ではないけれども、相手の活用の方法、目的とか、ストーリーに

寄り添った形でリソースをうまくまとめて提供する。ひょっとしたら、デパートの外のお店のものとうまく合わせて、そこにソリューションを届ける。そういう活動が必要になってくるのかもしれない。

○高野座長 生貝さん、どうぞ。

○生貝構成員 ありがとうございます。

もともと杉本先生がSlackで書いていただいたところだと思うのですが、7ページの一番上の人のつながり、コミュニティのところをどのように活動ポリシーに入れるのかは、特に論点として重要なのかと思っていて、といいますのも、今までジャパンサーチの活動は、比較的コンテンツの部分がある種集約して、それをつなげて、活用してもらうためのプラットフォームです。なので、基本的にはバーチャルの領域に焦点を当てていました。

例えばまさにSlackでも書いていただいたテーマに関しては、Europeana Aggregators Forumとか、Europeanaのボードには必ず各分野のアーカイブ機関の代表が入っていて、それらが意思決定をしているとか、9ページのEuropeanaの括弧のところにあったような支援するといった、それぞれアーカイブ機関の職員の方たちがこういった取組に参加していくための支援、杉本先生が行っていたデジタルアーカイブネットワークの一般的な取組も含めて、まさに入っているといったときに、ミッションステートメントにあくまで我々はコンテンツのプラットフォームを目指すのか、あるいは文化施設及びその中の人たちを含めたプラットフォームを目指すのか、そのことというのは、活動方針全体を規定することにもなると思いますので、これから何をやっていくのかということと併せて考えられるとよいのかと思います。

もう一つ、個人的に関心を持っているのは、11ページの一番下のEuropeanaの2020年から2025年ですけれども、3番目のアーカイブ機関のデジタルトランスフォーメーションの支援というところです。ここに触れるのかどうかということも、今の論点との関わりで結構大きいのだろう。実際問題、彼らの情報発信、あるいはコンテンツのマネジメントの支援といったようなところまで含めてやっていく、さらには彼らの業務をより高度化することに役に立つようなことは何なのかということは、まさに全国的なMLAをこういった組合として考えていくことまでをミッションにするのかどうか、まさにその辺りが一つの大きなミッションステートメントを決める上で分かれ道なのかということを感じています。

以上です。

○高野座長 どうもありがとうございます。

どちらもやったらいいと思いますけれども、我々がやるかどうかということですね。このテーブルで、国として誰かがやるべきことを広く議論するのは重要だと思います。そのうちのどの部分を、ここでの活動が実際に担っていけるのかというのは、ジャパンサーチを今後、どういう感じで長期的、中期的に運営していくのかということに関わると思います。考えるべきことは間違いないですね。

○生貝構成員 おっしゃるとおりです。ステートメントに何を書くかで、まさに名は体を

表すために何をすべきかが決まるということです。

○高野座長 逆にここに書き込むということは、そういうものに対しての直接的な予算要求ではないけれども、そういう体制を作ってもらいたいという、この委員会からの要望にもなり得ると思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○杉本構成員 また追加になりますけれども、ジャパンサーチそのもののサービスとしてどういうふうに使っていくかという、そういう意味での活動ポリシーの話と、ジャパンサーチをつくってきたことで得た経験を世の中にフィードバックしていくこともあっていいと思うのです。ですから、少し抽象度は上がる話になるかと思いますが、そうしたこともある種インフラづくりとしては大事なのではないかと思います。

○高野座長 今日の議題の意図は多分後者だと思います。小さい意味での今あるジャパンサーチを何年後、どういうシステムとして維持していくのか。その周りの活動も含めて考えるということですが、ジャパンサーチ・セントリックに狭く考えるのではなくて、これができたことによってどんな広がり生まれ、どんな活動を日本の中で進めていくべきかということ議論していただきたいのです。それで大き過ぎると言われたら、ちょっとずつ畳んでいくみたいなことで議論が盛り上がるのではないかと思います。

大向さん、手が挙がっていますね。どうぞ。

○大向構成員 ミッションとか、活動ポリシーにどうしても絡み合った話になってしまうのですが、まず確認として、ミッションと言われているところについて、ジャパンサーチのミッションと、全体戦略ワーキンググループなどで考えるようなミッションとが少し重複しているように思われます。特に3ページに書かれているミッションは、ジャパンサーチであろうが、なかろうが、デジタルアーカイブジャパンとしての理想状態ということだと思うのですが、それが決まった上で、ジャパンサーチは何が貢献し得るかという構造になっていると、議論がしやすいと思いました。それが全体に対する1点目です。

もう一つは、活動ポリシーのほうですが、誰に向けてなのかというところを今一度明確にできるとよいと思いました。一部の項目については、ユーザーに対して直接貢献するという部分もあれば、ユーザーをまとめるコミュニティに対して貢献しますという情報も混ざっているように思われます。ここの性格づけを決めて、例えばユーザーコミュニティに対する支援なのだ、あるいはユーザーに対する支援なのだ、場合によっては、どちらかはもうやらないのだという判断材料にも使えるような情報になっていかなければいけないと思いますので、データ提供のパートナーがつなぎ役と個々の機関で構成されているということで階層化して議論されていることと同じように、利活用のユーザー側も何らかの構造を定義した上でアクションプランに落とし込んでいくといいのではないかと思います。

以上です。

○高野座長 どうもありがとうございます。

議論がフォーカスしていないのは御指摘のとおりです。全体の会議で議論すべきことが、今、ここのテーブルに乗っていることも事実だと思います。ただ、ここはジャパンサーチという具体的なサービス、あるいはその実践を踏まえた上で、内側からどういうところまでこれを広げていけるのかという視点で御議論いただくのがいいと思っています。それが今のジャパンサーチのユーザーに向けてのメッセージにとどまってもいいし、さらにはもう少し大きい世界に対しての要望、あるいは親会に対する要望みたいなどころにつながっていてもいいのだろうと思うわけです。ですから、議論しやすいレベルで議論していただいて、最後にまとめるのは大変かもしれないのですけれども、あらかじめ議論の最初からこのレイヤーだけですよという話にはしたくないというのが議長としての気持ちです。

後藤さん、手を挙げていますか。

○後藤構成員 資料の9ページのEuropeanaのストラテジープランはよくできていて、特に戦略の柱の四つみたいな形の整理というのは、結構いいと思います。先ほどの大向さんと高野先生の話の中でもあったように、例えば誰が誰に向けて何をするみたいな感じで、主語と目的語と述語をこの戦略の柱はそこら辺がしっかり明確に書かれていると思うので、そのようなところで誰がという形での整理を立てていくと、結構つくりやすくなるということと、それを戦略の柱を見ながら思った次第です。このような形で、四つぐらいの動詞に分けてみるというのは、一つの戦略かもしれないという気はしました。

○高野座長 私もそれを思っていて、前にこれを入れてとお願いしたのです。こうすることによって、先ほどの大向さんの指摘のように、ちょっと違うレイヤーを誰に向けて誰がというようなもので、いろんなパターンを取り込むことができる。少なくとも4種類取り込むことができるということで、さすがヨーロッパ、賢いという感じがいたしました。

ほかにいかがでしょうか。山崎さん、手が挙がっていますか。どうぞ。

○山崎構成員 今のことに関連しますけれども、例えば6ページの活動ポリシーを考えるところでも、例えば地域資料を使って、地域の課題を解決するためにイベントを実施できるようにするといった場合には、誰が実施するということは確かにないので、ずっと気になっていたのです。ここはサポートするなどになるのでしょうか。上は提供という言葉を使っているので、これはジャパンサーチが提供するというイメージになるので、皆さんがお話しされたように、主体なのか、サポートなのか、仕組みの自動的なものなのか、そこは明確に書かないと曖昧過ぎると思います。そこは賛成ということですよ。

#### 【コレクションポリシーについて】

○高野座長 どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

時間も過ぎていきますので、次に移ります。最後はコレクションポリシーです。これは響きとしては具体的な感じがするのですが、よくよく考えるとそうでもないです。いかがでしょうか。御意見のある方はお願いいたします。

これは取りあえず狭い意味でのジャパンサーチに取り込む、取り込まない、受け入れる、ちょっと待ってもらいたい、そういうことを決める一種の方針がないと、実際に運営

しているNDLとしては困ってしまうということです。そういう指針が欲しいということだと思います。どうぞ。

○杉本構成員 今の話も先ほどと通じるところがあると思うのですが、コレクションポリシーといったときのレイヤーの違いがよく分からなくて、ジャパンサーチの運営側としてのコレクションポリシーということもあれば、そこに提供主体側と利活用側に分かれるわけです。だから、どういう領域を中心にやっていきたいとか、どういうサービスをつくることを目的にしてやっていきたいといったコレクションポリシーをつくるためのポリシーがはっきりしていないのです。ですから、そこも議論は必要なのだろうと思います。

○高野座長 一遍に決めにくいので、まずは小さく、ここは小さく、今あるジャパンサーチに、次、どういうものを取り込んでいくか、どういうものについては難しい、先にしますという判断基準を整えばうれしいということです。営利的につくられたデータベースなどの取り込みを向こうは入れてくれと言ってきたときに、今、何の方針もなく、何となく難しいということでお断りしているのだけれども、何らかの基準に照らして、それは難しいという言い方ができると思います。

大向さん、どうぞ。

○大向構成員 コレクションポリシーの中で営利・非営利の話が書かれていますけれども、それに関連して、まずオープンであるかどうかというところは重要だと思っております。現状のジャパンサーチ上で資料がオープンに使えるかどうかを、マル、バツではっきりと分かるように表示しているとか、そこに対しては重要な価値判断をしていると思いますので、きちんとポリシーの中に入れて込んでいただけるといいと思いました。

以上です。

○高野座長 ほかにいかがでしょうか。いかがでしょうか。これは難しいです。

今、具体的にに入れてくれとあって、待ってもらっているというのはどれくらいあるのでしょうか。

○徳原室長 それについては、その他のところでお諮りしようと思っていた机上配付用の資料の中にありますが、今、御説明しますか。

○高野座長 ちょっとデータとして知りたいです。

○徳原室長 それでは、別添の資料になります。

今、見えているのは、文書を取り交わして、連携準備中のところになります。ここは特に粛々と進めていこうとしているところです。

あと、2枚目の連携候補で、実務者検討委員会でこれまで確認されたところはあるのですが、まだデータベース名が挙がって、検討の素材になっているけれども、まだ進んでいないものがそのままリストになっています。

書籍に関しては、基本的に国立国会図書館サーチ、いわゆるNDLサーチ経由での連携ということになっていますので、図書館領域に関しては、そんなにお待たせすることもなく、問題ないと思っています。

今、リストにあるこういった地域のそれぞれの個別のところと調整は進めているけれど

も、すぐにやりましょうというか、向こうのアプローチを待って、じっくりゆっくりやっているといったところがあります。

さらにこちらからはアプローチを全くせず、寝かしているといったものが、3のこれまで連携候補に挙がった機関・データベースの一覧になります。

○高野座長 これは向こうから声がかかっているというわけでもないですね。

○徳原室長 そうです。これは他薦、自薦の両方です。

待ってもらっているという意味でいけば、3番目のところにあります市町村レベルのミュージアムなどはどうしたらいいのだろうというところで、こちらから積極的に働きかけはしていないところになります

地方の小さなものに対してどう優先順位をつけて、どうアプローチをしていけばいいのか。我々国立国会図書館も大変限られた人数でやっていますので、小さいところでも優先してやるべきだとなれば、もちろんやるのですけれども、とはいえ、同時並行でやることも限られていますので、こういった小さな地域のアーカイブをどう考えていくかといったところが課題となっております。

以上です。

○高野座長 今でもどこか特定の町や市の写真ばかりいっぱい入っていて、検索すると、その市の情報ばかり写真で見つかるというようなことがあるので、バランス上どうなのかなと思います。代表的なものだけを入れるとか、何か工夫が必要かもしれないですね。

○徳原室長 そういった工夫ができるようなコレクションポリシーにするには、どうしたらいいのでしょうかということです。

○杉本構成員 杉本です。

今のことで質問なのですが、コレクションポリシーとして例えば優先順位をつけたいというお話が出てきたと思うのです。そうすると、優先順位をつけるというときに、思いついたままに1番から100番までと振るわけにはいかないのです。そうすると、優先順位をつけるためのクライテリアが幾つか出てくるのだろうと思うのです。そのうちの一つがコマーシャルか、ノンコマーシャルかということだったと思いますし、あるいは大きいか、小さいかということで、そういうものをリストアップしていただけると、議論しやすいのだろうと思います。

中身に関して、大きな声では言えないのかもしれないのですが、今、タッチーなコンテンツだからやめておきたいとかということもあると思うのです。そういうことも含めて、コレクションポリシーのときにそういうものを出してもらえらるほうが議論しやすいと思います。

○高野座長 今、現場で悩んでいる具体的な例に対して、こういう観点で判断する基準が欲しいというようなことを皆さんと共有して、いろいろアイデアをいただく。最後はブレンドというか、合わせ技でこちらのほうがいいのか、こちらは待っていただきましょうとか、現場の体力の問題もきっとあると思うので、どこかの委員会なり、コミュニティなりのプロポーザルに基づいて判断していくということですね。

○杉本構成員 あと、大向さんがおっしゃっていたオープンかどうかというのは、それも絶対的な条件ですとしておくことも一つなのだろうと思います。

○高野座長 Europeanaは、一番最初は確かCC0でないと駄目みたいな感じでやって、そうしたら、集まりが悪かったのか、もう少し緩やかにしたり、それで集まったものをみんな入れていたのだけれども、体力的に大変になったので、画像の見栄えがよくないものは外していくということで、いろいろ工夫をされていると思うのです。それに類したことをやる必要があるかということですね。

ほかにいかがでしょうか。山崎さん、挙がっていますか。

○山崎構成員 コレクションポリシー自体が当面のものなのか、それとも、長期的なものなのかによって、大分違って来るだろうと思うのです。現在、登録すること自体は人的なものが必要で、何でもかんでもいかないとすれば、多少当面の間というのは、何かの優先的なもので、コレクションポリシーに入れるか、別に書くかは分かりませんが、つくったほうがいいだろう。

ただ、広がってきた場合に、ユニーク性が高いものでつなぎ役がないようなエリアの場合には入れていかないと、本当に必要なものも入ってこなくなるので、ここはずっとコレクションポリシーに固定するべきではないのかもしれないと思います。状況によって変えていくという形です。当面は、今、出ているような事実上、申込みがあって、手をつけられないのであれば、ポリシーも何も以前の問題として、どれを先にやるかということで、優先順位の話に今はなってしまうのかという印象です。

○高野座長 多分そうだと思います。

生貝さん、どうぞ。

○生貝構成員 ありがとうございます。

私がSlackに投げたものを拾っていただいたので、補足までなのですが、連携の優先順位というところは、恐らく何かしらの形でポリシーが必要で、他方で、スライドの18ページに書いていただいているのは、最初は高野先生がおっしゃっていただいたような意味でのほぼネガティブリスト形式というか、こういうものでなければ連携できないといったような範囲設定をすることを念頭に置いた提案というところがあります。

例えば、ユーチューブとか、Flickrとか、あるいはアフィリエイトを含めてやっているような風景写真販売サイトとか、そういった非常に貴重な文化的遺産（デジタルコンテンツ販売サイト）をジャパンサーチとつなげるかどうかのポリシーは、今のところは全く存在しないところで、その辺りは文書化できるといいというのが一つです。

そういう意味では、先ほど大向先生がおっしゃっていたオープン化というところは、間違いなくまさに優先順位に出てくるべき非常に重要な要素なのだろう。他方で私が書いたものの二つ目の2行目から3行目のところ、これもEuropeanaそのままなのですが、オープン化は絶対条件にしてしまうと、オープン化は、我々オープンデータ界隈が言うのは、いわゆる二次利用ができるCC BY相当ですから、コンテンツにそれを求めるとかなりつらいということになるときに、Europeanaでも、登録等の手続なしに自由にアクセス可能で



あるところまでを最低条件としているのです。最低限のネガティブリストで、最低ここまでやっていなければと書けるのはこのくらいまでだろうという意味でこんなことを書いております。

せっかくなので、補足までというところまでございました。

○高野座長 そういう規定の仕方はいいかもしれないですね。

○生貝構成員 ちゃんとやろうとすると、優先順位と範囲設定の両方が必要なのです。

○高野座長 悩んでいる設定が2種類違う理由でこんがらがってしまいます。

後藤さん、どうぞ。

○後藤構成員 原理原則から共有しておく、恐らくジャパンサーチのミッションが決まるというプロセスだと思うので、まずは本来であれば、ポリシーとミッションが決まった上でコレクションポリシーが決まっていくという順番だということでは、先ほど山崎さんがおっしゃったような、今をどうするかという話と長期的にどうするかという話で、長期的にどうするかというところでは、そういう順番というのは原理原則としては当たり前だと思うのですけれども、一応指摘しておいたほうがいいと思ったので、しておきます。

その上で、コレクションポリシーという点でいうと、今、どの部分で何が問題かというところで、問題点みたいなものを列挙したような資料はありますか。私は見つけられなかったのですけれども、ピンポイントでこういうものが悩みなのでみたいな話は聞きますが、全体として何が課題になるのか、その辺はいかがでしょうか。

○徳原室長 連携の際の課題という意味ですか。

○高野座長 なぜこういうものが来てしまったら困ると思っているかということです。

○後藤構成員 類型化したものが欲しいということです。

○徳原室長 確かに生貝先生のおっしゃるとおり、営利・非営利のところ、企業などの営利目的のところのデジタルアーカイブに関して、国がお墨つきを与えるようなことをどこまで許容できるのかといったことは、まず大きな問題だと思っています。なので、営利・非営利というところは考えていただけるとありがたいと思っており、18ページのSlack等からというところで挙げているのですが、課題としては、18ページのスライドに思いが詰まっているところがありまして、営利・非営利をどう考えるかという整理をできれば先生方にしていきたい。

もう一つは、地域の小さなデジタルアーカイブをどう考えていくのかということが課題と思っています。つなぎ役優先という場合に、小さいところは拾えない。一方で、教育で活用するには、地方の地域資料は重要だと言われます。あるものから片っ端から連携しなさいということになるのか、一定程度の基準を満たしたものを連携しましょう、市町村それぞれにやっていて、最終的に5,000、6,000になってしまうかもしれないけれども、ちょっとずつ頑張りなさいという方針になるのか、進め方として結構変わってくると思うのです。市町村は県がつなぎ役としていろいろ入れ物を持つまで待ちましょうとなるのか、それとも、オープンかどうかということもあるでしょうけれども、市町村でも頑張っているという基準を何かしらつくって、それでよければ、個別でもとにかく連携するのか。この

議論はつなぎ役の創出の議論とかぶるところがあると思っています。

大きな課題としては、この2点だと思っています。

○後藤構成員 確かに地域の非常に良いアーカイブをうまく入れていくのは、直接ではなくて、どこかのつなぎ役をフォローアップすることも含めて入れていくということをやらないといけないと思います。議論をした上で、幾つかの条件をつくって、それはオーケーか、オーケーではないかみたいな条件設定を細かくしていくほうがいいという気もしました。

以上です。

○高野座長 件数が多く、ある特定のところに偏ったものをいっぱい入れると、データベース全体の検索結果のビューが壊れるというか、非常に偏った印象になることは事実だと思うので、ジャパンサーチに取り込むにしても工夫をする。そういうことを両にらみで考えなければいけないのかもしれないです。

営利・非営利といっても、一言で言うのは割と簡単ですけども、ページを見るのにはお金は取っていないけれども、例えば広告がいっぱい出ているようなサイトはどう考えるのかとか、厳密に決めようとする、ものすごく難しい話になりそうです。営利・非営利判定委員会みたいなものを立てておいて、そこが非営利と言ったらオーケーみたいな、そのくらいに人間の判断とか、そのときの社会的な相場というか、普通の考え方とか、そういうものが入り込む余地を残しておくほうがいいような気もしますが、非常に難しい議論だと思います。

ほかにいかがでしょうか。

今日すぐに結論が出ることではないというのは覚悟していて、そのつもりでここに持ち込んでいて申し訳ありません。継続審議ということになるうかと思いますが、最後に一言ございますか。どうぞ。

○杉本構成員 今、結論が出ないということもそうなのですが、今、高野先生がおっしゃったいろんなケースがあるということで、多分そういうケースに関して、提供していただくというか、ある程度カテゴライズしたもので提供していただくと、議論はしやすいのだろうと思います。

○高野座長 次回は、迷っているというか、できたらこれは外したいと思っているものについて、なぜかという理由を出して、それをある種みんなが認める条件にできるかどうか、一般的な判断基準に持ち上げられるかどうかということで議論をしたいと思っています。ある特定のサービスだけを敬遠するというのではなくて、そのサービスがこういう性質のものだからリジェクトですという形で判断したいですね。

○杉本構成員 担当者向けのガイドラインのドキュメントができればいいということなのです。

○徳原室長 そもそも連携していくかどうか悩みます。

○生貝構成員 先ほどのところで私が申し上げた、透明で客観的に合理的なルールがあったほうがいいと感じるのは、法律畑だからというのもあるのですけれども、連携をはじか

れると、はじかれた側からすると、公のサービスの恩恵を受けられないことになる。そういったような観点からもルールが必要なのだと感じているというのは、補足です。

○高野座長 委員会を超えて外に対してアナウンスしてもおかしくないルールを考えていきたいと思います。

それでは、時間を随分超過しましたが、(1)の議論はここまでということです。

## (2) 広報の強化について (コミュニティの育成)

## (3) 利活用の促進について (利活用事例の創出と情報共有)

○高野座長 広報の強化についてということで、これも国会図書館からお願いします。

○徳原室長 徳原から、資料2になります。

残された論点として、論点4、論点5がございます。論点1から論点3につきましては、前回御議論をいただいていますので、今回は論点4の広報強化、論点5の利活用の促進についてお願いいたします。

論点4につきましては、そもそも広報が足りていないのではないかとされておりまして、きっかけとして、PV数が圧倒的に少ないのではないかと、文化遺産オンラインだと、月100万件以上あるという座長からの御指摘がありました。今の統計データとしては、参考資料3につけておりますように、7ページ目です。一日当たり6,500弱ぐらいですし、一日当たりの平均ユーザーとしても2,000もいっていない。もっといってもいいのではないかとということです。

ただ、利用されている人にとっては、平均セッション数ですが、平均で見ている時間というのは、2分36秒と悪くない数字ではないと言われていまして、平均直帰率も以前は70%を超えていたのですけれども、今、ちょっとずつ下がっていて、平均直帰率というのは、アクセスして、そのページを見てすぐ戻ってしまった率になるのですけれども、なるべくこれが低いほうがジャパンサーチを活用してくれているということになります。こういった状況から、広報がまだまだ足りていないのではないかと御指摘を受けている中、ではどうしたらいいかといったことを御議論いただければと思っています。

今、特に連携機関として参加いただいている機関様もこの会議では多いですので、ぜひ御自分の機関のところで何ができるかというところをお話しいただけると大変うれしく思います。

例えば、ジャパンサーチでは、「ワークスペース」といってマイノートで作ったものを共同で、みんなで同時に利用できる機能があったりするのですけれども、これは連携機関の方だったら誰でも利用できますので、それでイベントをしていただくとか、ジャパンサーチのコンテンツとしてギャラリーをつくって、公開をしていただくといったことも、今、国会図書館だけでやっているのですけれども、連携機関の方で御協力いただけることがないだろうかと思っています。

展示の企画などをつくった際に、そこで紹介できなかったものを、ギャラリーを使って

紹介いただくとか、そういったようなことが考えられないかとか、ジャパンサーチの公式ツイッターで発信強化に取り組もうとしているのですけれども、それに関してもこういうツイートがあればいいのではないかなど、連携機関からの御要望をいただきたいです。また、御自分のツイッターにも出していただきたいし、場合によっては、これを使ってみたなどの情報をいただけたら、こちらでツイッター発信したりとか、いろいろ考えられると思っています。

連携機関のフォーラム、アグリゲーターズフォーラムというか、皆さんが集まってさまざまな情報交換ができる場が欲しいみたいなことがありましたら、そういったことも考えられると思っています。日常的に連携機関の方々とやり取りができる場が欲しいみたいなことがあるのか、ないのか、そうすることで、より広報の広がりが出てくるのかどうかといった御意見などがあれば、お聞かせいただきたいです。

また、そもそも利活用コミュニティというのは、先ほどから話題になっていますので、コミュニティを育成するためにはどうしたらいいか。コーディネーターというところを支援できるといいでしょうか。

ジャパンサーチには「プロジェクト」という機能がございまして、ジャパンサーチの本体ではないのですけれども、ほぼ本体と同じようなことができる。複数の機関で、一つのプロジェクトで様々なことを試せるといったことが、ジャパンサーチの機能を使ってできることがありますので、そういったものをコーディネートしてくれる人をどう支援していけばよいか。

エバンジェリストがあるといいといった話も今までにも出てきていました。これは後ろの参考資料1の4ページ目のところですが、前回の全体戦略ワーキンググループでも出ている資料なのですけれども、こういったオープンデータの取組を参考に、オープンデータ伝道師みたいな、ジャパンサーチ利活用伝道師みたいなことを何かしらできないものでしょうか。

あと、ワークショップをいろいろ開催したりとか、利活用事例を共有したりなどを考えられるかもしれませんが、どういった形で利活用コミュニティを育成するかといったことで、アイデア等がありましたら、お知らせいただきたいと思います。

一般的ないわゆるユーザーがちょっと検索するときに、グーグルだけではなくて、ジャパンサーチを引いてみようかみたいな、日常的なメディアの露出をどうやったらいいかということを何か考えられる方策があれば、教えていただきたいと思っていますし、社会課題解決型のこういう課題を設定してやっていけたらいいことがあるのかどうかといったこととか、お考えがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

資料の3枚目になりますが、例えば連携機関とコーディネーター、仮に拡げ役とよびますが、あと、一般ユーザーそれぞれに対して、どういう目的で、どういう広報手段が考えられるかを事務局で考えてみたものになります。アプローチの仕方としてそうではない、もっとこういうやり方がいいのではないかといったようなことがあれば、今日、御議論いただきたいと思います。

先ほど御説明した参考資料1のほかに、参考資料2は、前回のワーキンググループでも御紹介しております中から関連で、どこでジャパンサーチを見ましたかとか、どういう機能があるかというと思いますとか、職種、所属みたいなところをピックアップしています。

参考資料3は、先ほど紹介したので飛ばします。

続きまして、論点5を説明させていただきます。

これは利活用の促進ということで、先ほどの活動ポリシーも目標と似た話だと思うのですが、目的ごとにどういう活用ができるか、もうちょっと詳細化したほうがいいのではないかという、前回御指摘もあったところ、具体的にこういうところがやれるといいみたいなことを本日、御意見をいただければありがたいと思っています。

また、利活用するに当たって、いろんな分野があるけれども、どこから手をつけるべきかといったようなことの御指摘があれば、ありがたいです。

今、実際のところは、9枚目になるのですが、一番左側が目的ごとです。教育、学術・研究、観光、地域活性化、防災、ヘルスケア、ビジネスみたいに入れてはいるのですが、こういったそれぞれの利活用の中でも、最初に教育に力を入れるべきとか、インバウンドで直接お金が動く観光に力を入れるべきではないかみたいな、何か取り組むべき優先事項みたいなお考えがあれば、教えていただきたいと思っております。

論点5の資料としましては、同じくユーザーアンケートで関係しそうなものを参考資料4として、10枚目、11枚目につけております。

説明は以上になります。

○高野座長 どうもありがとうございました。

それでは、時間もあまりないので、4と5を特に分けずに、御意見のあるところからいただければと思います。どなたからでも結構です。お願いします。渡邊さん、どうぞ。

○渡邊構成員

先ほどの利活用の優先順位というのは違和感があります。利活用というのはボトムアップに出てくるものだというのをこの間からお話ししていて、出てきたものから育てていくというスタンスにしないと、私たちが世界全体を把握しているわけではないので、優先順位にすると、今の選択と集中をもたらしたのみたいな話になってしまうような気がします。

目算したものとは違う方向に深化するものだと思いますから、今、具体的に出てきている利活用の事例を分け隔てなく育てていくというスタンスでいたほうがいいと思います。なので、優先順位について議論することにあまり意味を感じないという意見でした。

○高野座長 賛成です。

徳原さんは、国会図書館中心に応援していくという形で考えている利活用についての議論だと思います。

渡邊さんは、自発的にいろんなところで生まれるだろうから、生まれたものを適切に支援していけばいいわけで、何も事務局が順番をつける必要がないということです。

例えばカルチュラル・ジャパンは、なぜこの活用例に入っていないのか。私はちょっと

疑問を感じました。

ほかにありますでしょうか。阿児さん、お願いします。

○阿児室長 私が気になっていたのは、連携機関とコーディネーター、ユーザーという区分けをしてしまうというのはすごく違和感がありまして、3ページでしょうか、ターゲットごとの広報手段というものがあるのですけれども、これまで連携機関自身がユーザーでなければなかったのではと思っていて、データを提供しているだけになってしまっているのが、お前が言うなど言われるかもしれませんが、それを一つの課題だったのかと思っています。実はジャパンサーチが自分たちのデータベースの広告塔という捉え方をしてしまうと、お国がお墨つきを与えているのではないかとか、そういうようなユーザー目線になってしまうのが一つ問題です。

今、私は大きなところにいますけれども、もともとは東工大の博物館の小さいところにいたときに要望で言ったのは、自分たちがデータ連携でジャパンサーチに出して、さらにジャパンサーチを通じて自分たちが利用者となって、機関としてさらにユーザーとつながっていただけるのではないかと期待していたのですけれども、今は連携機関がジャパンサーチに出しているだけです。今回、最初の話でもあった循環みたいところが上手にできていないと思いますので、連携機関への広報の中身として、連携機関自身が利用者となるような形も必要なのではないかと思っています。特にウェブパーツなどの活用というのは、もっと入れてもいいと思っています。

以上です。

○高野座長 多分資料をつくった意図はそういうところにあります。要するに連携機関としての関わりなのだけれども、同じ機関がコーディネーター機関としてもなるだろうし、ユーザーを物すごく抱えた機関にもなるはずです。そういう立場、機能としてこの表を見てもらって、具体的なフィジカルな組織には、もっとコーディネーターとしての役割、ユーザーとしての役割にも気づいてもらいたいというのが、この資料をつくった人の意図だと思いますので、あまり矛盾はしていないと思います。

○阿児室長 そうだと思います。

○高野座長 山崎さん、どうぞ。

○山崎構成員 利活用の優先的な対象というのは、先ほどから出ているように、難しいと思うのですけれども、提供できる力が限られているとすれば、ある程度は考えなければいけないと思います。

当然ながら、今、一番地方で求められているのは、特にタブレット、パソコン配布によってコンテンツがないということなのです。今、PCが配られていますけれども、ハードだけ導入しているわけですから、どうしても見るものがない。

そうすると、先ほどにも関係してくるのですけれども、地域の資料が一番ないことはない。ただ、先ほどのコンテンツの優先順位でいくと、それが難しいとなれば、ここを駆使していくのは、最初は難しいかもしれません。

先ほど最後のところで追加で言いたかったのですけれども、バランスの問題もあって、

つなぎ役がないエリアであれば、こういうものが出てこれなくなる可能性があるので、そこはケース・バイ・ケースなどところがあるだろう。

ただ、教育、特に小中学校分野に関しては、今、非常に必要だと思っています。これは現場に行ったり、学校に行ったりすると、そういう声がよく先生方や投資家の方から聞こえてきます。

もう一つは、来年以降になれば、観光コンテンツは相当重要になることは間違いないので、日本で今必要だというのは、防災、観光、教育が一番必要だと思うのです。ビジネスというのは、それに付随するものでしょうし、ビジネスの場合には、蛇の道はへびという感じで、必要があればどこまでも求めてくるので、こちらから積極的なアプローチをかけなくても、探し出してくれるというのは、学術の傾向が多少はあると思います。

ただ、学校教育に関しては、伝わっていないのです。ジャパンサーチ存在そのものがほとんど知られていないので、大学までにとどまってしまっています。大学を通して学校教育者に伝わっている部分もあるのですけれども、そこは弱いという感じです。

今の我々のほうで全部そこをアプローチしてやっていくのは難しいかもしれませんが、それぞれの分野のリーダーの方たちにうまくつなげて、そこから広げていくという手もあるのかと思います。

以上です。

○高野座長 大向さん、お願いします。

○大向構成員 直接的なコメントではないのかもしれませんが、先ほどグーグルアナリティクスを見せていただいたのですけれども、ジャパンサーチが何千万ページもあるサイトなのに、1日6,000PVというのはおかしいと思います。あり得ない数字というか、いろんな人が理由なくアクセスしただけでも、これだけページ数があれば、数万はいかないと、設計として何か間違っていると思わざるを得ないです。

参照元はグーグルが50%なので、実質3,000回ぐらいしか、グーグル経由で1日に踏まれていないという計算になるので、グーグルなどを含めて、情報がどう評価されているのかということのを改めて確認していただいたほうがいいのではないかと思います。

ページのソースを見ると、ほとんど記号列しか出てこないで、タイトルの文字列などもほぼヒットしないだろうと思いますし、外部からの観点で、一般のウェブサイトとしての情報の提示方法を整理した上での利活用促進だと私自身としては思いました。

以上です。

○高野座長 どうもありがとうございました。その辺りの分析は今年予定しているのですよね。

○徳原室長 はい。今年度、外注でお願いしている中で、どこから入って、どう出ていくかみたいなことも、ログ解析を含めて分析を外部にお願いしているところです。ただ、半年後ぐらいに報告はなってしまうのですけれども。もし出てきたら、皆様に共有させていただきます。

○高野座長 全てのページが動的につくられていてということだと思います。テーブル・オブ・コンテンツなどで、幾つかのページ例を全部グーグルにクロールさせるとか、そういう配慮を一切していないのだろうと思うので、大向さんの心配は当たっていると思います。

室屋さん、お願いします。

○室屋構成員 教育普及関係の利活用ということで、アナロジーとしての御紹介になるのですけれども、美術館では、どう活用してもらうかということで、鑑賞教育をベースにした学校の先生向けの研修活動を10年ぐらいやっているのです。その中で、今回も資料の中にも出てきていますけれども、学習指導要領に即して、図工・美術だけではなくて、ほかの教科も含めて美術館をどういうふうに活用していくのかという検証をずっとやってきています。

そういう研修活動は、APIを通じてデータベースを構築すると書かれてしまうと、学校の先生にそれができるのかどうかは、甚だ疑問なのですけれども、例えばもう少し検索コードを通して、何か物事を学習的に組み立てていくとか、そういうことでジャパンサーチを活用していくという研修会とか、もうちょっとローテクな感じの活動を具体的にはやっていったほうがいいのではないのかということで、資料の特にAPIというキーワードを見て思いました。

以上です。

○高野座長 現場がもともとやっている活動の中でジャパンサーチを試しに使える場所がないかやってみる。そのためにどう使ったらいいのかよく分からないユーザが相談できる窓口があって、「そういう目的でしたら、ある美術館のものだけが引ける検索窓を特別に用意することもできますよ」みたいなコンサルテーションをする。具体的な問題を持ち込んでもらって、それを一緒に課題解決できる人とマッチングしていくことが必要かもしれないですね。どうもありがとうございました。

後藤さん、どうぞ。

○後藤構成員 私も一言、あまり本質的ではないかもしれないのですけれども、実は人間文化研究機構もそうなのですが、ふと思ったのですけれども、つなぎ役の機関からジャパンサーチへのリンクがないところはかなりあるのではないのでしょうか。なので、つなぎ役のところからジャパンサーチへの入り口みたいなものがすごく限られていて、私も連携機関のウェブページをずっと探していたのですけれども、ジャパンサーチにぱっとリンクが貼られているところがほとんどなかったりして、うちがつなぎ役としてデータを出していますみたいなものをそれぞれのウェブサイトが宣伝していないということもあるのではないかと思います。

人間文化研究機構も何とかしないといけないと思ったのですけれども、そういうつなぎ役のところとのここに出していますみたいなものをきちっと出してもらうような工夫など、そういう地道なところも必要だと思いました。

以上です。



○高野座長 連携機関のサイトの上のほうでリンクを貼ってもらっても、ほぼ効果はゼロです。その機関が提供するサービスで何かを検索しているところにいつも出てきて、このサイトでいろいろ調べたけれど見つからないから、ジャパンサーチに探しに行こうかというような、より広いところで探す手段という位置付けになるわけですね。

○後藤構成員 それとか、まさにウェブパーツでも本当にジャパンサーチを探すようなところの検索窓がもう一個あるとなると、入り方が変わってくるので、そういうものが必要だと思いました。

○高野座長 ぜひよろしくお願ひしいます。阿児さんのところと後藤さんのところで入れれば、相当なインパクトになります。

ほかにいかがでしょうか。杉本さん、どうぞ。

○杉本構成員 ジャパンサーチを国会図書館でやられているときに、ユーザーの顔がどこまで見えているのかというところがありまして、例えば渡邊先生がおっしゃっていたようなケースだと、もともと使ってみたいという意欲があるというユーザーがボトムアップに上がっていきけるユーザーであると思うのです。

その一方で、例えば公共図書館でもって、要は公共図書館の利用性を高めたいという話があるのです。そのときにどうやってお客さんを引っ張ってくるかということから考えていかないといけないわけです。

ジャパンサーチの場合に、阿児さんの話とか、室屋さんの話に共通するところがあると思うのですけれども、実際にサービスを提供しているところ、あるいはそういうところでもって直接使ってもらって、そのフィードバックを返してもらうとか、公共図書館のような場というものがいいだろうと思うのですけれども、そこにジャパンサーチをちゃんと使える人は多分いないだろうと思うのです。

例えばそういうところは、山崎さんがよく御存じだと思うのですけれども、お客さん向けにどうやって使っていくといいかといったことのモデルというか、あるいはトレーニングの場をつくっていくことが必要なのではないかと思います。結局、コンテンツをつくっている側からどういうお客さんが来ているのかということが見えていないのではないかと思います。

あと、全く違う観点なのですけれども、後藤さんの話と通じるところがあると思いますが、例えばいろんなエキシビションの国際的に、あるいは国内的にやってもらった後で、例えばその中でこういうコンテンツというのはここにありますが、それを広げると、ここを探すとありますといったフォローアップができないか。ジャパンサーチを使うと見つけられるだけだったら駄目だと思うのです。こういうふうにして探すと、ここには出せなかったけれども、こういうものがもっと広く見られますといった使い方、事前事後ですか、そういうような使い方の例を開発して、それをコミュニティで共有することが必要なのではないかと思います。

以上です。

○高野座長 ほかにいかがでしょうか。

本当は国会図書館からそういう人をばっと派遣できると一番いいのですけども、そういう人的余裕はないのですか。あるいは相談すれば、そういう可能性もあるのでしょうか。

○徳原室長 今、せっかくこの場に集まっている方々が行きますと言ってくれるだけでも大きな力になると思っていますので、どのように実務者検討委員会のメンバーの方々がエバンジェリストになっていただけるのかということではと考えております。

○高野座長 エバンジェリスト登録を受け付けるということですね。

○徳原室長 観光大使みたいになってほしいです。名刺はおつくりして差し上げます。

○高野座長 北本さん、どうぞ。

○北本構成員 抽象的な言い方になってしまうのですけれども、通常こういう解決策は、問題があって解決策を提案して、この解決策でこの問題をこんなにうまく解決できるのですというメッセージを出すと、すごく分かりやすいのですけれども、よくあるのは、解決策だけ先にできてしまって、その後でそれが解ける問題を探すというパターンです。問題を探し中の解決策みたいな言い方があるって、ジャパンサーチもそれに当てはまってしまっているという感じがします。

解決策としては既にあるって、いいものができているのですけれども、さて、問題は何だったのだろうというところで、多分問題がこれで解決できますという、エバンジェリストが出すメッセージとして分かりやすく、ユーザーが見えないということも多分そういうことなのかもしれないのですけれども、これで解決できる中に存在する問題というのが幾つかリストアップできれば、それを出すことによって、もっと伝わるのではないかとこの気がしています。

利活用というよりは、もうちょっと深いところですね。例えばみんなが困っていることとか、そういうところが多分問題なので、それが解決できるようなメッセージの出し方もあると思います。

○高野座長 ジャパンサーチがあって、こんな解決ができました。よかったとか、以前はこうだったのだけれども、すごくよくなりましたみたいな成功ケースが具体的な形で語られていることが大切で、そこでジャパンサーチは必ずしもメインでなくてもいいですね。美術館の作品についての理解を深めてもらうのに役に立ったとか、教室で授業がうまくいったという成功ケース、サクセスストーリーを集めることですね。

ほかにはいかがでしょうか。山崎さん、どうぞ。

○山崎構成員 現行のジャパンサーチのギャラリーはとてもよくできていて、学校の先生がこれらを使って教材をつくることを意識したのではないかと思えてならないぐらいのできのよさなのです。ただ、この仕組みというのは、いろんなところで紹介されてはいますけれども、ほとんどの学校関係者にはあまり伝わっていないようなイメージはあります。ここの候補というのは、NDL側で全てをやるのは不可能に近いと思うのです。ですから、中間的な広報を促進する人たちというのは必要だと思います。

私のところでも、今年、デジタルアーカイブの研修会をやろうかと思っていますので、ぜひ御協力いただければと思うのですけれども、様々な団体があって、いろいろな取組を

していることは間違いないですので、図書館も含めてですけれども、美術館、博物館もそうです。そういうところとうまく協力して、直接ではないのですが、間接的なプッシュを図ったらどうでしょうか。

質問なのですけれども、ジャパンサーチにはバナーがありますね。これはどのくらい使われているのでしょうか。あまり見たことがなくて、これが使えるというのは、見る側のリンクで使ってもらうことを意識したのか、それとも、つなぎ役がジャパンサーチとつながっているということを意識してつくったものなのかによって、若干違ってくると思うのですけれども、その点は分けるという手もあるかもしれません。いずれこの辺りのバナーなどを普及したほうがいいと思いました。

○高野座長 どうもありがとうございます。

そういう軽い連携というか、軽い紹介とか、そういうところへの区分ができるかもしれないですね。

○徳原室長 バナーは連携機関の方々にここと連携しているということで使っていただくために、当初用意しているものです。先ほど後藤先生もおっしゃるとおり、連携機関の方は使ってくださっていないというのが現状です。

○山崎構成員 そうすると、ただのリンクでは使えないということなのですか。例えば図書館とか、学校でホームページにバナーをリンクとして使いたいということは意図していないということでしょうか。

○徳原室長 もちろん、御自由に使ってくださいってよいです。

○山崎構成員 サイトにはそう書いています。だから、ひょっとしたら、分けるという手もあるかもしれません。手間はかかるかもしれませんが、提供役のバナーとリンクのバナーを違う色にするとか、メッセージを変えるなどをしてもいいと思いました。

○徳原室長 ありがとうございます。分かりました。

○高野座長 それでは、時間も押してきたので、次の議題に移らせていただきます。

#### (4) その他

○高野座長 (4) その他は大体終わっていますでしょうか。

○徳原室長 その他は、幾つかの機関から連携候補が来ておりますが、候補としてお認めしてよろしいですかという確認でございます。御異論がなければ、候補リストに追加させていただきます。

○高野座長 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

それでは、最後、ごちゃごちゃとしてしまいましたが、何とか時間に間に合いました。これで一通り今日の議論は終わったのですが、相当なフラストレーションというか、消化不良の気分が最初から最後まで残ったと思います。

今後の進め方について、皆様からこんな形のほうがいいのではないかとか、この議論の進め方についての御意見も募集したいと思いますので、ぜひ御提案ください。

正式公開から1年たって、ジャパンサーチの存在自身はそれなりに知られました。まだまだユーザーは多くないかもしれないですが、大いに存在意義のある、よいサービスを作ったと言っていただくことも多いです。

今日、このような議題を取り上げたのは、これをもう少し長いビジョンで見て、単にいいサイトができたで終わらせずに、持続的な活動として位置づけたい。EuropeanaがEuropeanaという特定の検索サイトではなくて、一つの大きな運動につけられた名前であるのと同じように、ジャパンサーチを、より中期的にこの分野のことを考えていくための求心力にしたいとの思いからです。日本のこの分野を代表する委員の皆さんと、目指すべきミッションを議論して、ミッションステートメントのような形にして発信していく。こういう活動を繰り返していこう、全部はできないまでも、こういう方向でやっていきましょうとか、そのためにはどういうコレクションを作っていくべきか議論して、それをいずれ文書にまとめたいというのが、今日、こういう生煮えの議題をぶつけた真意であります。

今日だけでは、御意見を伺い切れなかったと思います。随時求めておりますので、ぜひ忌憚のない御意見を寄せていただければと思います。よろしくお願いたします。

それでは、事務局から何かありますでしょうか。

○事務局 本日も積極的なご議論をいただきありがとうございました。チャットにいただいた「twitterやInstagramをWebサイトに埋め込んでいる機関はあるが、ジャパンサーチを埋め込んでいる機関はない」という御意見も含めて、今後、整理したいと思います。また、高野座長から御提案いただきました意見の募集ですが、Slackでも結構ですので、書き込んでいただければと思います。

次回は全体戦略のワーキンググループの第3回になりますけれども、夏頃には開催したいと考えておりますので、議案、スケジュール等は改めて御連絡をさせていただきます。

以上でございます。

○高野座長 それでは、長時間にわたり、熱心な御議論をありがとうございました。今日はこれで終了といたします。

以上